

# 四半期報告書

(第150期第3四半期)

自 平成25年10月1日

至 平成25年12月31日

第一工業製薬株式会社

(E00885)

# 目 次

	頁
表 紙	
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1
第2 事業の状況	2
1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
第3 提出会社の状況	4
1 株式等の状況	4
(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) ライツプランの内容	4
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(6) 大株主の状況	4
(7) 議決権の状況	5
2 役員の状況	5
第4 経理の状況	6
1 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
四半期連結包括利益計算書	10
2 その他	15
第二部 提出会社の保証会社等の情報	16

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月10日
【四半期会計期間】	第150期第3四半期（自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日）
【会社名】	第一工業製菓株式会社
【英訳名】	DKS Co. Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長執行役員 大柳 雅利
【本店の所在の場所】	京都市下京区西七条東久保町55番地
【電話番号】	— （上記は登記上の本店所在地であり、実際の本社業務は下記において行っております。）
	本社事務所 京都市南区吉祥院大河原町5番地
	電話番号 京都 075 (323) 5911
【事務連絡者氏名】	取締役上席執行役員財務本部長 浦山 勇
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区京橋一丁目3番1号 八重洲口大栄ビル8階 第一工業製菓株式会社 東京本社
【電話番号】	東京 03 (3275) 0561
【事務連絡者氏名】	東京本社事務所長 多田 貢
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第149期 第3四半期連結 累計期間	第150期 第3四半期連結 累計期間	第149期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高（百万円）	39,730	40,611	51,843
経常利益（百万円）	1,303	1,423	1,544
四半期（当期）純利益（百万円）	607	758	797
四半期包括利益又は包括利益 （百万円）	738	1,215	1,589
純資産額（百万円）	17,350	19,086	18,200
総資産額（百万円）	51,713	58,385	55,416
1株当たり四半期（当期）純利益 金額（円）	14.24	17.79	18.68
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	17.78	—
自己資本比率（%）	31.9	30.9	31.1

回次	第149期 第3四半期連結 会計期間	第150期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日	自平成25年10月1日 至平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 （円）	8.01	8.61

- （注） 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第150期第1四半期連結累計期間より金額の表示単位を千円単位から百万円単位に変更しております。  
なお、比較を容易にするため第149期第3四半期連結累計期間及び第149期についても百万円単位に組替えて表示しております。
4. 第149期第3四半期連結累計期間及び第149期の潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、円安・株高を背景に、輸出や生産に加え設備投資にも持ち直しの動きがみられ、景気は着実に回復してきております。しかし、新興国など海外経済の先行きには不透明感があります。

化学業界におきましては、エネルギー価格の上昇や円安による基礎原料ナフサ価格の高騰が収益を大きく圧迫しており、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、この厳しい事業環境を乗り越えるため、コア製品事業の拡販に努めるとともに、将来の成長分野である「環境」、「エネルギー」、「電子材料」、「生活資材」などの分野を中心に新規市場の開拓や新素材の開発に取り組み、原材料の安定的な確保や適正な採算確保、新コスト削減計画による総経費の削減活動などに取り組んでまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績といたしましては、売上高は406億11百万円（前年同四半期比2.2%増）、営業利益は15億23百万円（前年同四半期比0.3%減）、経常利益は14億23百万円（前年同四半期比9.2%増）、四半期純利益は7億58百万円（前年同四半期比24.9%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### <界面活性剤>

界面活性剤の売上高は、総じて好調に推移しました。

国内では、ゴム・プラスチック用途の活性剤は大きく落ち込みましたが、石鹸洗剤用途の活性剤は大幅に伸長し、金属用途の活性剤は好調に推移しました。

海外では、ゴム・プラスチック用途の活性剤は低調に推移しましたが、繊維用途の活性剤は好調に推移し、色材用途の活性剤は順調に推移しました。

その結果、当事業の売上高は151億19百万円（前年同四半期比1.4%増）となりました。

営業利益は、売上高が好調に推移したことや営業経費の削減が功を奏し8億85百万円（前年同四半期比10.4%増）となりました。

#### <アメニティ材料>

アメニティ材料の売上高は、総じて好調に推移しました。

国内では、セルロース系高分子材料は飼料用途がやや低迷し、トイレタリー用途はやや低調に推移しましたが、紙パルプ用途は堅調に推移しました。シヨ糖脂肪酸エステルは香粧品用途が堅調に推移しました。

海外では、セルロース系高分子材料は医薬品用途がやや低調に推移しましたが、食品用途は順調に推移しました。シヨ糖脂肪酸エステルは香粧品用途が堅調に推移し、食品用途は新規開発が実り大幅に伸長しました。

その結果、当事業の売上高は53億74百万円（前年同四半期比2.8%増）となりました。

営業利益は、高付加価値品の売上高が大幅に伸長し3億10百万円（前年同四半期比22.2%増）となりました。

#### <ウレタン材料>

ウレタン材料の売上高は、総じて大幅に伸長しました。

ゴム・プラスチック用途は需要回復が鈍くやや低迷しましたが、公共工事の増加により建築用材料及び土木用薬剤は伸長し、重防食塗料用途は好調に推移しました。フロン規制に関連する環境対応型の合成潤滑油は顕著に伸長しました。

その結果、当事業の売上高は70億66百万円（前年同四半期比12.4%増）となりました。

営業利益は、原材料費の高騰や営業経費がかさみ1億19百万円（前年同四半期比24.9%減）となりました。

#### <機能材料>

機能材料の売上高は、総じて好調に推移しました。

国内では、臭素系の難燃剤は建築材料用途などの需要が旺盛となり顕著に伸長しました。光硬化樹脂用材料は電子材料用途が順調に推移しました。水系ウレタン樹脂は塗料用途や鋼板向け用途が低調に推移しましたが、フィルム用途やガラス繊維用途は好調に推移しました。

海外では、光硬化樹脂用材料は電子材料用途がやや低迷しました。臭素系の難燃剤はデジタル家電用途の需要低迷により顕著に落ち込みましたが、電気・電子材料用途のリン系の難燃剤は顕著に伸長しました。

その結果、当事業の売上高は78億34百万円（前年同四半期比4.5%増）となりました。

営業利益は、価格競争の激化に加え原材料費の高騰や営業経費がかさみ2億10百万円（前年同四半期比14.0%減）となりました。

#### <電子デバイス材料>

電子デバイス材料の売上高は、総じて大きく落ち込みました。

太陽電池用途の導電性ペーストは顕著に落ち込みました。射出成形用ペレットは好調に推移し、機能性無機材料は低調に推移しました。

その結果、当事業の売上高は52億15百万円（前年同四半期比10.1%減）となりました。

当事業は、売上高の落ち込みが響き2百万円の営業損失（前年同四半期は68百万円の利益）となりました。

#### (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、18億15百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

#### (4) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの従業員数に重要な変動はありません。

#### (5) 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの生産及び販売実績に重要な変動はありません。

なお、当社グループでは、受注生産を行っておりません。

#### (6) 主要な設備

当社は四日市地域の生産拠点の再編を目的として、今後5年の間に新工場を建設します。三重県四日市第3コンビナート内（三重県四日市市霞1丁目）の100,000㎡の敷地に“未来作りの城”を築く計画です。

その第一段階として、排水関連や電力・ボイラー設備など化学工場として不可欠のインフラ設備と共に燃料電池用部材等の電子材料等（ウレタン材料セグメント）の製造設備を建設します。設備の詳細な設計については本年6月を目処に完了し、着工する予定です。三段階に分けた総設備投資額約120億円のうち、第一期における投資額は約60億円を見込んでいます。

平成27年9月の操業開始を目指し、その後は、需要が増加する機能性樹脂材料の工場や次世代電池の新素材開発を進める計画です。工業用薬剤メーカーとして、まず、国内市場で優位性を持つ商品開発に努め、海外展開への基盤を築きます。市場動向を確認しながら、いわゆる「マザー工場」としての機能を順次高めてまいります。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	102,110,000
計	102,110,000

###### ②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月10日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	43,421,609	43,421,609	東京証券取引所市場第一部	単元株式数 1,000株
計	43,421,609	43,421,609	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日	—	43,421	—	7,141	—	4,902

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 750,000	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 42,585,000	42,585	—
単元未満株式	普通株式 86,609	—	—
発行済株式総数	43,421,609	—	—
総株主の議決権	—	42,585	—

② 【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
第一工業製薬株式会社	京都市下京区西七条東久保町55番地	750,000	—	750,000	1.73
計	—	750,000	—	750,000	1.73

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

(1) 当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載していましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位をもって記載することに変更しました。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,782	9,498
受取手形及び売掛金	13,717	15,030
商品及び製品	6,552	5,714
仕掛品	44	46
原材料及び貯蔵品	1,752	1,716
前払費用	203	144
繰延税金資産	315	213
その他	1,305	1,438
貸倒引当金	△12	△17
流動資産合計	30,661	33,787
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,103	7,875
機械装置及び運搬具（純額）	2,928	3,590
工具、器具及び備品（純額）	455	412
土地	6,375	6,554
リース資産（純額）	1,495	653
建設仮勘定	1,052	1,101
有形固定資産合計	20,411	20,188
無形固定資産		
その他	473	420
無形固定資産合計	473	420
投資その他の資産		
投資有価証券	2,978	3,237
長期貸付金	27	30
長期前払費用	293	238
繰延税金資産	224	139
その他	358	356
貸倒引当金	△12	△12
投資その他の資産合計	3,870	3,989
固定資産合計	24,754	24,597
資産合計	55,416	58,385

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,174	12,113
短期借入金	9,862	10,143
リース債務	1,193	335
未払法人税等	298	139
賞与引当金	484	287
環境対策引当金	1	—
未払事業所税	29	23
未払費用	253	257
その他	2,471	2,576
流動負債合計	25,770	25,877
固定負債		
長期借入金	8,849	10,971
リース債務	761	739
繰延税金負債	84	69
退職給付引当金	1,411	1,298
資産除去債務	70	71
その他	267	270
固定負債合計	11,445	13,421
負債合計	37,215	39,298
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,141	7,141
資本剰余金	5,470	5,470
利益剰余金	4,970	5,430
自己株式	△197	△197
株主資本合計	17,384	17,844
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△34	124
繰延ヘッジ損益	—	△23
為替換算調整勘定	△94	104
その他の包括利益累計額合計	△128	205
新株予約権	16	16
少数株主持分	927	1,019
純資産合計	18,200	19,086
負債純資産合計	55,416	58,385

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
 【四半期連結損益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	39,730	40,611
売上原価	31,702	32,209
売上総利益	8,027	8,401
販売費及び一般管理費	6,500	6,877
営業利益	1,527	1,523
営業外収益		
受取利息	2	3
受取配当金	23	23
持分法による投資利益	48	50
為替差益	20	45
その他	47	71
営業外収益合計	141	194
営業外費用		
支払利息	212	215
その他	152	79
営業外費用合計	364	294
経常利益	1,303	1,423
特別損失		
減損損失	※ 133	※ 72
固定資産処分損	38	28
特別損失合計	171	100
税金等調整前四半期純利益	1,131	1,323
法人税、住民税及び事業税	326	322
法人税等調整額	135	176
法人税等合計	461	499
少数株主損益調整前四半期純利益	669	824
少数株主利益	61	65
四半期純利益	607	758

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	669	824
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	36	156
繰延ヘッジ損益	△0	△23
為替換算調整勘定	31	196
持分法適用会社に対する持分相当額	0	61
その他の包括利益合計	69	390
四半期包括利益	738	1,215
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	662	1,093
少数株主に係る四半期包括利益	76	121

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 債務保証

従業員の金融機関からの借入金に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
従業員銀行住宅借入金	19百万円	従業員銀行住宅借入金	16百万円
従業員銀行提携借入金	4	従業員銀行提携借入金	3
合計	23	合計	19

2 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形割引高	551百万円		520百万円

3 シンジケート・タームローン契約

前連結会計年度 (平成25年3月31日)

当社は平成21年6月、平成22年9月、平成23年9月及び平成24年4月にシンジケートを活用したタームローン契約を締結しております。

- (1) 平成21年6月25日付シンジケート・タームローン契約  
平成25年3月31日残高 800百万円
- (2) 平成22年9月27日付シンジケート・タームローン契約  
平成25年3月31日残高 1,430百万円
- (3) 平成23年9月14日付シンジケート・タームローン契約  
平成25年3月31日残高 1,955百万円
- (4) 平成24年4月10日付シンジケート・タームローン契約  
平成25年3月31日残高 3,500百万円

なお、当該契約には以下の財務制限条項が付されております。

- ① 各年度の決算期及び第2四半期の末日における連結及び個別の貸借対照表における純資産の部の金額を直前の決算期 (含む第2四半期) 比75%以上に維持すること。
- ② 各年度の決算期における連結及び個別の損益計算書に示される営業損益が、2期連続して損失とならないようにすること。

当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)

当社は平成21年6月、平成22年9月、平成23年9月及び平成24年4月にシンジケートを活用したタームローン契約を締結しております。

- (1) 平成21年6月25日付シンジケート・タームローン契約  
平成25年12月31日残高 500百万円
- (2) 平成22年9月27日付シンジケート・タームローン契約  
平成25年12月31日残高 1,100百万円
- (3) 平成23年9月14日付シンジケート・タームローン契約  
平成25年12月31日残高 1,610百万円
- (4) 平成24年4月10日付シンジケート・タームローン契約  
平成25年12月31日残高 2,975百万円

なお、当該契約には以下の財務制限条項が付されております。

- ① 各年度の決算期及び第2四半期の末日における連結及び個別の貸借対照表における純資産の部の金額を直前の決算期 (含む第2四半期) 比75%以上に維持すること。
- ② 各年度の決算期における連結及び個別の損益計算書に示される営業損益が、2期連続して損失とならないようにすること。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 減損損失

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

① 当社グループは以下の資産グループについて、減損損失を計上しております。

場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
第一工業製薬(株) 大湯事業所	セルロース系高分子製品専用製造設備	建物及び構築物	19
		機械装置及び運搬具	93
		工具、器具及び備品	0
		撤去費用	21
合 計			133

② 減損損失の認識に至った経緯

(セルロース系高分子製品専用製造設備の減損損失)

セルロース系高分子製品専用製造設備のうち、老朽化が激しく将来稼働する見込みがない一部の設備について廃棄処分することを決定いたしました。これに伴い、廃棄処分が決定した設備については将来のキャッシュ・イン・フローが見込めないため、減損認識時点における帳簿価額の全額を特別損失として減損損失に計上しております。

③ 資産のグルーピングの方法

製品の組成及び製造方法に応じて区分したセグメントを最小単位として、資産のグループ化を行っております。遊休資産については個別単位でグルーピングを行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

① 当社グループは以下の資産グループについて、減損損失を計上しております。

場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
双一力(天津)新能源 有限公司 (中国 天津市)	リチウムイオンポリマー電池製造設備 及びノウハウ	機械装置及び運搬具	48
		工具、器具及び備品	1
		その他の無形固定資産	7
		長期前払費用	7
		小 計	64
—	—	のれん	7
合 計			72

② 減損損失の認識に至った経緯

(リチウムイオンポリマー電池製造設備及びノウハウの減損損失)

双一力(天津)新能源有限公司が営むリチウムイオンポリマー電池事業については、新商品の開発の遅れや価格競争の激化等により収益性が長期にわたって低下しており、現時点では将来のキャッシュ・イン・フローの生成が見込めず売却の可能性も極めて低いことから、減損認識時点における同社事業にかかる資産グループの帳簿価額の全額を特別損失として減損損失に計上しております。

また、同社に係るのれんについては、想定していた超過収益力が見込めなくなったことから、減損認識時点における帳簿価額の全額を特別損失として減損損失に計上しております。

③ 資産のグルーピングの方法

製品の組成及び製造方法に応じて区分したセグメントを最小単位として、資産のグループ化を行っております。遊休資産については個別単位でグルーピングを行っております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
減価償却費	1,499百万円	1,539百万円
のれんの償却額	14	14

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	298	7	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金

II 当第3四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	298	7	平成25年3月31日	平成25年6月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	界面活性剤	アメニティ材料	ウレタン材料	機能材料	電子デバイス材料	合計
売上高						
外部顧客への売上高	14,914	5,230	6,287	7,495	5,802	39,730
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	14,914	5,230	6,287	7,495	5,802	39,730
セグメント利益(営業利益)	801	254	158	244	68	1,527

(注) 報告セグメント利益の合計金額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「アメニティ材料」セグメントにおいて、セルロース系高分子製品専用製造設備のうち、老朽化が激しく将来稼働する見込みがない一部の設備について廃棄処分することを決定いたしました。これに伴い、廃棄処分が決定した設備については将来のキャッシュ・イン・フローが見込めないため、減損認識時点における帳簿価額の全額を特別損失として減損損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては133百万円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	界面活性剤	アメニティ材料	ウレタン材料	機能材料	電子デバイス材料	合計
売上高						
外部顧客への売上高	15,119	5,374	7,066	7,834	5,215	40,611
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	15,119	5,374	7,066	7,834	5,215	40,611
セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は営業損失)	885	310	119	210	△2	1,523

(注) 報告セグメント利益または損失の合計金額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「電子デバイス材料」セグメントにおいて、双一力(天津)新能源有限公司が営むリチウムイオンポリマー電池事業については、新商品の開発の遅れや価格競争の激化等により収益性が長期にわたって低下しており、現時点では将来のキャッシュ・イン・フローの生成が見込めず売却の可能性も極めて低いことから、減損認識時点における同社事業にかかる資産グループの帳簿価額の全額を特別損失として減損損失に計上しております。

また、同社に係るのれんについては、想定していた超過収益力が見込めなくなったことから、減損認識時点における帳簿価額の全額を特別損失として減損損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては72百万円であります。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年12月31日)
(1) 1 株当たり四半期純利益金額	14円24銭	17円79銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	607	758
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	607	758
普通株式の期中平均株式数(千株)	42,672	42,671
(2) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額	—	17円78銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)	—	—
普通株式増加数(千株)	—	5
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—————	—————

(注) 前第 3 四半期連結累計期間の潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月10日

第一工業製薬株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 浅井 愁星 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中島 久木 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 駿河 一郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている第一工業製薬株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、第一工業製薬株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月10日
【会社名】	第一工業製薬株式会社
【英訳名】	DKS Co.Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長執行役員 大柳 雅利
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役上席執行役員財務本部長 浦山 勇
【本店の所在の場所】	京都市下京区西七条東久保町55番地
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

**1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】**

当社代表取締役社長執行役員大柳雅利及び当社最高財務責任者浦山勇は、当社の第150期第3四半期（自平成25年10月1日 至平成25年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

**2 【特記事項】**

特記すべき事項はありません。